札幌彫刻美術館友の会会報　2024 年 7 月

いずみ

No.88

街なかの美を守ろう

（題字　國松　明日香）

自作自選 58

撮影　安田香澄（Amejika）

《体　温》

井越　有紀

（2 ページに「作者の言葉」）

自作自選 58　　作者の言葉

2020年から21年は本郷新記念札幌彫刻美術館に通い、本郷新の作品との出会いの中で作品を制作していました。

《体温》はその時期に最後に制作した作品です。本郷新の作品から命の尊厳、温かさを感じていました。私の作品の形作った手は生命、その温かさに触れているようなイメージです。触れ合いの中で生まれる感覚を表現した作品です。

（1981年、札幌生まれ。札幌を拠点に活動中）

タイトル：体温
制 作 年：2021 年
技　　法：ナイロンと綿による
　　スタッフィング
サ イ ズ：H8.0×W14.0×D10.0 cm
設置場所：作者蔵

連載　宮の森の四季　58　　本郷新記念札幌彫刻美術館

「山内壮夫研究」

学芸員　梅村尚幸

本郷新と最も親交の深かった彫刻家・山内壮夫（1907～75 年）は、本郷と同様に数多くの公共彫刻を手がけている実力者にもかかわらず、今の若い世代にはほとんど知られていない埋もれた作家になっています。来年に没後 50 周年を迎えるにあたって、その生涯と制作を改めて振り返り、展覧会の開催や図録の出版という形でまとまった記録を世に出して、多くの人々に彼の作品を評価してもらう必要があると考えています。

今年度はその準備段階として、山内壮夫の資料をできるだけ多く集め、情報を体系化する調査研究を行います。この研究に対し公益財団法人ポーラ美術振興財団から助成金をいただいており、すでに旭川での現地調査を終えたところです。中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館では、37 冊ある山内の日記を中心に調査させていただきました。日記には制作のことや他の作家との交流など貴重な情報が綴られているので、丹念に読み込んでいかなければなりません。

個人的には、山内が建築家の計画に寄り添った彫刻の制作（建築と彫刻の協働）を心がけていたことに関心があります。この点は彫刻の建築からの独立を主張した本郷とは異なる方向性を示しており、二人の作品にどのような相違が現れたのかに注目してみたいです。

羊ヶ丘展望台とクラーク博士像

さっぽろ羊ヶ丘展望台支配人　　本宿　圭太

札幌市内にありながら、北海道らしい雄大な景観を楽しめる「さっぽろ羊ヶ丘展望台」。ここのシンボルといえば、右手を掲げたクラーク博士像ですが、羊ケ丘とクラーク博士には、実はなんの所縁もありません。では、なぜここにクラーク像があるのでしょうか。

もともとこの地は当時の北海道農業試験場の一角で、小高い丘から見下ろす石狩平野の美しい景観と、牧草を食む羊の群れという牧歌的な風景を目当てに市民や観光客が集まっていました。しかし、あくまでもここは試験場ですので、多くの観光客が押し寄せることで研究に支障があるとして、北海道農業試験場は観光客の立ち入りを制限しました。いわゆる現在でいうところの「観光公害」ですが、「せっかくの観光名所を消滅させるのはもったいない」と関係者が協議を続け、試験場の業務に迷惑をかけないことを条件に、札幌観光協会の管理運営のもと、1959 年 9 月 18 日に観光施設としてのさっぽろ羊ヶ丘展望台が誕生しました。さっぽろ羊ヶ丘展望台は、今年の秋に 65 周年を迎えます。

展望台の開業当時、この地にクラーク像はありませんでした。クラーク像といえば、北海道大学構内にある胸像のことで、ポプラ並木とともに札幌観光のシンボルとなっていました。これらを目当てに観光客が北大に押し寄せましたが、北大は観光客が学業の妨げになるということで、構内への観光バスの乗り入れを制限しました。クラーク胸像を見られなくなることを憂慮した札幌観光協会が中心となり、北海道開拓の原点であるフロンティアスピリットを全国に伝えるため、北大の了承のもと、全く新しいデザインのクラーク像を羊ヶ丘展望台に設置する計画を立てました。ウィリアム・スミス・クラーク博士が札幌農学校教頭の任を離れ、島松の地で「ボーイズ　ビー　アンビシャス」と叫んだのは 1877 年 4 月 16 日。それから 99 年後の 1976 年 4 月 16 日に、さっぽろ羊ヶ丘展望台のクラーク博士像は除幕、お披露目されました。

建立から長らく風雪に耐え続けたクラーク像でしたが、傷みやサビが目立ってきたことから昨年大規模修繕を実施。サビや汚れを徹底的に落とし、再塗装を施すことで、像の制作者である故・坂坦道氏こだわりの金茶色の輝きを取り戻しました。羊ヶ丘展望台のクラーク像は見たことがある、写真を撮ったことがある、という人も多いと思いますが、48 年前の建立当初の輝きを取り戻したクラーク博士像に、ぜひ会いに来てほしいと思います。

寄稿

アートとは何か

出会わないものが出会うとき、「何か」が生まれる

フリーライター　吉村　卓也

2004 年、観光情報学会という組織の主催で「アートツーリズム研究プロジェクト」という会合がモエレ沼公園で開かれた。そこで私は、札幌の持つアート資産を観光に結びつける提案を発表させてもらったのだが、実はこの時初めて友の会の橋本信夫先生にお目にかかった。あれから 20 年、「アートツーリズム」はどうなったのかというと、状況はその頃とたいして変わっていないのではないかという感を抱く。

つまり、アートはまだまだ「芸術」としてあがめ奉られる感が強く、美術館では静かに鑑賞しなくてはならず、「芸術の素養がないから」と謙遜しながら「わからないなぁ」と通り過ぎられ、一向に日常に降りてくる気配が薄い。

5 月 6 日にお招きいただいた本会のセミナーでは「アートと地域づくり～芸術は人を呼ぶ」と題してお話させていただいた。2023 年に私が関わった南区芸術祭「ミナミナク・アートプロジェクト」の事例を主に紹介させていただいたが、このプロジェクトは南区制 50 周年を記念して、南区をアートで売り出したい、といういろいろな思いが集まって実現にこぎ着けた、南区役所主催のイベントだ。

札幌国際芸術祭があるではないか、という声もあるが、南区の芸術祭は地域性をより重視し、Down to Earth（地に足のついた）なものとし、ビッグネームのアーティストは必要とせず、地元の人が手づくりでつくる「フェス」であり、アート（芸術）をもっと身近に感じてもらいたかった。

石山緑地や廃校になった学校などを会場にして、日曜日にはキッチンカー（それも地元の人を優先）を呼んだり、大道芸があったり、売店があったり、アート「＋アルファ」の楽しみを作り出すことに気をつかった。

アート＋の次に来るものは何でも構わない。思いもかけないものを掛け合わせることにより、きっと１＋１が３にも４にもなる効果がもたらされるかもしれない。アートと「食」、「音楽」、「珈琲」、「テクノロジー」、「医療」、「SDG s」などなど。本会の行っている彫刻の清掃活動はまさに「アート＋掃除」のハイブリッドがもたらした体験だと思う。本来出会わないものが出会うとき、きっとそこに「何か」が生まれるはずだ。

寄稿

創立 50 周年の「朔北美術協会」（稚内）
記念事業は「彫刻清掃」に挑戦

朔北美術協会会長　吉澤　富男

道北の稚内市周辺を中心にした美術の公募団体「朔北美術協会」は今年、50 周年の節目を迎えました。

これまでの歩みを収録した「50 年の歩み」によれば、戦後間もない 1956 年（昭和 31 年）、宗谷地方の美術団体として「稚内美術協会」が設立されました。翌 57 年には第 1 回協会展を開催。以後、62 年を除いて毎年、協会展を開き、美術界をリードしました。しかし、74 年 12 月に解散、18 年の歴史に幕を閉じました。

その後を引き継ぐ形で発足したのが私たち朔北美術協会で、1 年後の 75 年 12 月には公募の第 1 回朔北展を開催しました。以来、毎年欠かさず朔北展を開き、稚内市を中心に天塩、豊富、礼文を含め、遠く京都にも会員を擁し、現在、35 人が活動を続けています。

協会では創立 5 年ごとの節目に記念事業を行っており、これまで工夫を凝らしながら様々なイベントを実施して来ました。周年での記念誌発行のほか、講演会の開催、道立近代美術館の「ピカソ展」への鑑賞バスツアー（2004 年、30 周年）、北大演習林（天塩）写生会なども催しました。

2019 年の 45 周年には私の提案で「稚内市彫刻 MAP」を作成しました。これにはあるヒントがありました。私は稚内公園のサハリンを望む高台にある本郷新の代表作「氷雪の門」が大好きで、その石膏原型がある本郷新記念札幌彫刻美術館には折に触れ訪れています。

ある時、美術館で、一般入館者に配布している A３サイズの 4 つ折りのパンフレットを目にしました。美術館周辺にある野外彫刻の設置場所を案内する彫刻地図でした。これにヒントを得て、「稚内市彫刻 MAP」を制作、道内の美術館などにも郵送しました。これがきっかけで札幌彫刻美術館友の会ともご縁が出来ました。

毎年欠かさず開催している「朔北展」

今回の 50 周年事業の企画では 8 月に恒例の「第 50 回朔北展」のほか、周年事業として「彫刻の清掃作業」を行うことにしました。これも毎号送られてくる札幌彫刻美術館友の会の会報「いずみ」に彫刻清掃の活動ぶりが載っているのを拝見し、思いついた次第で、4 月の協会の総会で 50 周年事業として取り組むことにしました。

すでに彫刻美術館友の会から作業手順などのアドバイスを受けながら、脚立 2 脚、水タンク、水中ポンプ、バケツ大小 20 個、がけブラシ 10 本、曲がりブラシ 10 本、磨き用布 60 枚、蜜蝋、希釈用薬剤などの準備を整えました。近く役員でテストの清掃を実施する予定です。先ずは本郷新の《太陽の母子像》と近くにある《二宮金次郎》から手掛け、ゆくゆくは《氷雪の門》にも挑戦しようと大きな夢を見ているところです。

2024年度彫刻美術館友の会総会

札

札幌彫刻美術館友の会の 2024 年度総会が 5 月 6 日、札幌市エルプラザで開かれ、新年度活動計画案、予算案など 4 議案を原案通り可決した。大型連休の最後の日と重なり、出席者は 31 人だった。

総会は議長に吉田千代さんを選出。2023年度活動報告、同決算・監査報告、2024年度活動計画案、同予算案の4議案を審議した。

23年度活動報告では札幌市内の老朽・危険度の高い彫刻の点検調査（146体リストアップ）、昨年春に発行した「ぶらり札幌彫刻めぐり」の増刷決定、彫刻清掃活動報告、旭川・東川へのバスツアー実施、新年会（24年2月17日）開催などの報告があった。また、23年度会計決算報告では収支決算額1,470,196円、繰越額786,516円の報告があり、園部亜佐子さんが監査報告を行った。

新年度活動計画では「北海道デジタル彫刻美術館」の作品解説、データの拡充、北海道が進める「北海道デジタルミュージアム」への登録実現、札幌市などから要請されている彫刻補修作業への支援などが決まった。また、新年度予算案として、収支1,286,516円が提案され、いずれも原案通り可決、承認された。

総会後の講演はフリーライター・吉村卓也さん

演題　「アートと地域づくり―芸術は人を呼ぶ～札幌市南区での事例から～」

総会後の講演会ではアートを通じて豊かな街づくりを展開している札幌市南区の「ミナミナク・アートプロジェクト」など幅広い地域活動に取り組んでいる吉村卓也さんが南区の実践を通して地域づくりの体験を語った。講演を聞いた道議の広田まゆみさんに感想を寄せてもらった。

パブリックアートの在り方学ぶ

会員　広田　まゆみさん（道議会議員）

講師の吉村さんとは「新しい魅力ある高校づくりプロジェクト」関連で十勝管内鹿追町でお目にかかっており、二度目の出会いでした。吉村さんが「南区アートプロジェクト」で大事にしていることは徹底的に「ローカル＝南区」にこだわるということです。展示する場の歴史的価値、ストーリーを大事にすることはもちろん、南区在住の人やゆかりのあるアーティストを大切にしていることに感銘を受けました。

また、単発のイベント的なものではなく、常設的な展示を含めて「アート×（かける）〇〇〇」として、例えば食、カフェ、テクノロジー、医療、時にはゴミ拾いなどの清掃活動をアートと掛け合わせることで日常に溶け込ませ、南区をアートを象徴する区としてプロデュースしているとのことでした。

鹿追高校でも南区の活動でも、すでに地域にもともとある資源と別の資源を掛け合わせて、新しい価値を生み出していくことに常にチャレンジされているのだなあとすごく腑に落ち、同時に私にとって大きな宿題をいただいたような気がしました。

微力ながら北海道の屋外彫刻などパブリックアートのこれからを、何と掛け合わせて、より多くの持続可能なものにしていけるか、これから学ばせていただきたいと思います。

2024年度彫刻清掃スタート
先ずは「新渡戸稲造夫妻像」から
今年も秋までに 30 体予定

2024年度の彫刻清掃活動が5月の大型連休明けから始まった。

トップバッターは5月11日、中央区南４東4、新渡戸稲造記念公園のおなじみ《新渡戸稲造萬里子両先生顕彰碑》。清掃作業には新渡戸遠友リビングラボ（旧・新渡戸稲造と札幌遠友夜学校を考える会）から3人が参加した。ワックスがはがれた個所もあり、水洗い、ワックス塗布を行った。磨き上げられた両先生の笑顔が今までにも増して微笑んでいるようだった。

ついで、26日には南区真駒内

地区の彫刻3体を清掃。《牛と少年》は昨年同様亀裂が目立ち、像の下の草刈りにとどめた。《エドウィン・ダン顕彰碑》は昨年補修を終え、植栽も施されていた。《ひとやすみする輪廻》は色とりどりの花に囲まれ、訪れる人の目を慰めていた。

2024年度彫刻清掃計画		
5月11日	新渡戸稲造顕彰碑	中）南4東4
5月26日	牛と少年ほか	地下鉄真駒内駅前
6月9日	夏の日	新琴似・安春川
6月23日	横たわるトルソー	彫刻美術館
7月7日	泉	大通西3
7月21日	木下成太郎像	中島公園
8月3日	猫とハーモニカ	中島公園
9月1日	漁民之像	大通西10
10月6日	わだつみのこえ	彫刻美術館

19 年ぶりに作品集刊行
「本郷新　言葉と彫刻」
本郷新記念札幌彫刻美術館

本郷新についてコンパクトに学べる作品集、「本郷新　言葉と彫刻」が本郷新記念札幌彫刻美術館から刊行された。

吉崎元章館長が「本郷新再考―いま私達は何を学ぶことができるのか」の論考で、本郷の代表的な作品の歴史的背景を通して時代を考え、今日的な視点に立って、そこに流れる精神を学ばなければならないと強調する。ほかに、「いまさら聞けない？！本郷新入門」は本郷の履歴、作品制作のエピソード。「カタログ　言葉と彫刻」には

多くの作品写真を掲載、本郷がさまざまな場で残した言葉を紹介している。

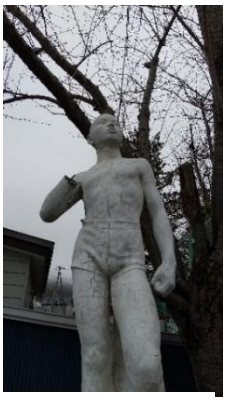
さらに、梅村尚幸学芸員の「『本郷新の言葉』の射程」は本郷の残したスクラップなどを友の会のスタッフも協力してデータ化した成果を「本郷新自著文献データ化作業報告」としてまとめた。

A5 版横長サイズで 68 ページ。1000 円。公益財団法人札幌市芸術文化団体発行。同美術館で入手できる。

彫刻補修の相談相次ぐ
札幌市簾舞中《希み》
岩見沢市《愛の母子像》

友の会の彫刻保全活動が知られるようになったせいか、このところ関係団体から劣化彫刻の補修についての相談が相次いでいる。

一つは札幌市簾舞中にある竹中敏弘《希み》。すでに像の右腕の爆裂落下などの傷みが進んでいるが、学校統合の話もあり、修復方針の決定は先になりそう。



傷みが激しい簾舞中の《希み》

一方、岩見沢市の市民会館横にある山脇正邦《愛の母子像》の修復は、60 年前に像を市へ寄贈した岩見沢ロータリークラブから。

修復手法などに詳しい髙橋大作会長が現地を訪れて対応しているが、会長によれば、同じ敷地内にある、坂坦道の《牧歌》も同程度に劣化しており、同時に 2 体修復してはどうかと市教委に提案しているという。

さらに、野外彫刻を管理している市に対しては、既存の野外彫刻像 80 体の劣化調査をし、その結果によって修復を進める方法や春と秋に市民による清掃の際、ブロンズ像のワックス掛けを提唱しているという。

事務局日誌▼24年3月14日＝定例役員会(エルプラザ)総会準備、新年度彫刻清掃計画、デジ彫進捗状況など協議▼21日＝STV「どさんこワイド」で友の会活動放送▼27日＝会報87号発送(エルプラザ)▼4月1日＝彫刻調査(北区安春川公園)2体の彫刻の清掃下見▼11日＝定例役員会(エルプラザ)稚内朔北美術協会へ彫刻清掃用具発送報告、総会議案作成ほか▼5月6日＝2024年度友の会総会・講演会(エルプラザ)新年度活動計画などすべて可決。講演会講師は吉村卓也氏

編集後記▼遅まきながら、本郷新の不朽の名著「彫刻の美」を手にした。初版は戦時中の1942年（昭和17年)。51年、再刊。さらに80年、「彫刻十戒」を加えて再々刊。刊行を楽しみにしていたが生前には間に合わず、死後、3カ月後の発行となった▼手にしたのは本郷生誕100周年記念に発行された2005年版。「彫刻の要素」「彫刻の技術」さらに、「彫刻の歴史」と、どのページを開いても平易な文章で、まさに「名著」と感銘した。

（大内）

札幌彫刻美術館友の会
会報「いずみ」　№88
2024年7月1日発行
発行人　髙橋　大作
編集者　大内　和
札幌市清田区清田5－4－6－30
011-884-6025
印　刷　山藤三陽印刷

会報「いずみ」88号　目次

自作自選58　《体　温》　井越　有紀　・・・・　表紙
宮の森の四季58「山内壮夫研究」　梅村　尚幸　・・・　2
風見鶏「羊ヶ丘展望台とクラーク博士像」　本宿　圭太　・・　3
寄稿「アートとは何か」　吉村　卓也　・・・・・　4
寄稿「創立50周年朔北美術協会」　吉澤　富男　・・・・・　5
友の会ニュース　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6-7
2024年度友の会総会／吉村卓也氏講演会／2024年度彫刻清掃始まる／「本郷新　言葉と彫刻」発刊／彫刻補修相談相次ぐ
事務局日誌／編集後記／目次／美術館行事予定ほか・・・・・　8

本郷新記念札幌彫刻美術館行事予定

本　館

■共振―本郷新＋北海道の現代アーティスト
開催中～9月16日月祝

現代の作家たちが本郷新（1905―1980）の作品や精神を見つめ直し、新たな視点や解釈を交えて、立体造形、写真、アニメ、短歌など様々な表現で応答する「現在と過去の対話」を体感できる展示。

＜出品作家＞
井越有紀（立体造形）　佐藤壮馬（インスタレーション）
鈴木涼子（写真）　山田航（短歌）
横須賀令子（アニメーション）　艾沢詳子（インスタレーション）

記念館

■コレクション展　2024―2025
開催中～2025年5月25日日

本郷新記念札幌彫刻美術館
札幌市中央区宮の森4条12丁目　☎011-642-5709

友の会ホームページ公開中です！ご覧ください
https://sapporo-chokoku.jp